



# Cisco TelePresence Conductor with Cisco TelePresence Management Suite

## 導入ガイド

---

XC1.2  
TMS 14.1

D15001

2013 年 3 月

**【注意】** シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意 ([www.cisco.com/jp/go/safety\\_warning/](http://www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)) をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

# 内容

概要.....	3
このマニュアルの使用方法.....	4
前提条件.....	5
TelePresence Conductor の要件.....	5
Cisco TMS の要件.....	5
Cisco VCS の要件.....	5
Cisco TelePresence MCU の要件.....	5
ダイヤル プラン.....	5
TelePresence Conductor の設定.....	6
スケジュールされた会議に会議ブリッジ プールを作成する.....	6
スケジュールされた会議の会議ブリッジ プールに会議ブリッジを追加する.....	6
スケジュールされていない会議に会議ブリッジ プールを作成する.....	7
スケジュールされていない会議の会議ブリッジ プールに会議ブリッジを追加する.....	7
スケジュールされた会議のためのサービス プリファレンスを追加する.....	8
スケジュールされた会議のためのサービス プリファレンスをフォールバックで追加する.....	8
スケジュールされた会議に会議テンプレートを作成する.....	8
Cisco TMS の設定.....	10
TelePresence Conductor および MCU を Cisco TMS に追加する.....	10
システムを Cisco TMS に追加する.....	10
接続設定の確認.....	11
TelePresence Conductor をデフォルトの MCU として設定する.....	11
Cisco TMS が使用する TelePresence Conductor のリソースを制限する.....	11
会議エイリアスの作成.....	13
スケジュールされたコール用に会議エイリアスを作成する.....	13
Cisco TMSにエイリアスを作成する.....	13
TelePresence Conductor でのエイリアスの作成.....	13
Cisco VCS および MCU の追加設定を構成する.....	15
参加者によるスケジュール済み会議の開始を防止するよう Cisco VCS を構成する.....	15
MCU 会議テンプレートを構成する.....	15
Cisco TMS と Cisco TelePresence Conductor による会議の予約と編集.....	16
会議の予約.....	16
会議の編集.....	17
スタンドアロン MCU への移行と復帰.....	18
スタンドアロン MCU からの移行.....	18
スタンドアロン MCU に戻す.....	19
制限事項.....	20
MCU のフェールオーバー.....	20

## 概要

このドキュメントは『[Cisco TelePresence Conductor Deployment Guide \(XC1.2\)](#)』（D14827）とともに使用することを意図しています。

このドキュメントでは Cisco TelePresence Conductor、Cisco VCS、Cisco TelePresence MCU を Cisco TMS で設定する方法について説明します。この配備では、TelePresence Conductor のもとで、MCU でホスティングされている参加者による会議をスケジューリングするのを可能にします。

スケジューリング用に予約されているテンプレートとエイリアスを TelePresence Conductor に設定する例を示します。これらのテンプレートおよびエイリアスは、スケジュールされた会議専用のブリッジを使用するように設定して可用性を保証することも、ランデブー会議コールと共有でブリッジを使用してブリッジ使用率を最適にすることも可能です。

またこのマニュアルでは、この配備で会議を予約および編集する方法についても説明します。制限事項に関する項は最後に含まれます。

Cisco TMS および MCU をすでに配置している環境に TelePresence Conductor を導入しようとしている管理者を対象に、このマニュアルでは既存の将来の会議を TelePresence Conductor に再予約するための移行方法も説明します。また、スタンドアロン MCU に戻す方法も説明します。

TelePresence Conductor における Cisco TMS のスケジューリングを実行する管理者は、この配備に含まれるすべてのインフラストラクチャ製品を熟知していることを前提としています。

## このマニュアルの使用方法

このドキュメントは『[Cisco TelePresence Conductor Deployment Guide \(XC1.2\)](#)』（D14827）に依存します。管理者が HD と SD の MCU をどのように区別できるかがドキュメントに記載されています。また、管理者がスケジュールされた MCU とスケジュールされない MCU とをどのように区別できるかがこのマニュアルに記載されています。

この導入ガイドの目的に沿って、管理者はスケジュールされた会議とスケジュールされていない会議とで会議ブリッジ プールを区別したいものと想定します。実際には、他の基準（例：HD 会議と SD 会議）で区別することもできます。TelePresence Conductor 導入ガイドから得られた知識をこのマニュアルと組み合わせて使用することによって、適宜設定を調整することができます。

したがって、この導入例を作成するには：

1. 次の点を考慮して、TelePresence Conductor 導入ガイドに従ってください。
  - SD および HD の品質のために作成したブリッジ プールを設定する代わりに、スケジュールされた会議用とスケジュールされていない会議用のプールを設定する必要があります。すべての手順では、「HD」を「スケジュールされた」、「SD」を「スケジュールされていない」に置き換えます。
  - Cisco TMS は会議タイプの「会議 (Meeting)」のみをスケジュールします。このマニュアルに記述した「講義 (Lecture)」という TelePresence Conductor 会議タイプはサポートされません。
2. 「Configuring TelePresence Conductor」という章に到達したら、このマニュアルに移り、続けて「[TelePresence Conductor の設定 \[p.6\]](#)」をご覧ください。

# 前提条件

## TelePresence Conductor の要件

電源が入っている Cisco TelePresence Conductor ユニットで XC1.2 ソフトウェアを実行中であり、ネットワークからアクセス可能であること。この段階に到達するために、『[Cisco TelePresence Conductor Getting Started](#)』（D14829）を参照してください。

## Cisco TMS の要件

- Cisco TMS バージョン 14.1 以降稼働しているサーバ。
- TelePresence Conductor を操作するには、HTTPS を介した通信を許可するように Cisco TMS を設定する必要があります。

## Cisco VCS の要件

バージョン X6 以降稼働している Cisco TelePresence Video Communication Server (Cisco VCS) または Cisco VCS クラスタを、『[Cisco TelePresence Conductor Deployment Guide \(XC1.2\)](#)』（D14827）の「Configuring the Cisco VCS」という章に従って構成すること。

## Cisco TelePresence MCU の要件

適切なソフトウェア バージョンで稼働している次の Cisco TelePresence MCU シリーズ会議ブリッジの 1 つ以上を、『[Cisco TelePresence Conductor Deployment Guide \(XC1.2\)](#)』（D14827）の「Configuring the conference bridges」という章に従って構成すること。

- MCU 4200 シリーズ バージョン 4.2 以降
- MCU 4500 シリーズ バージョン 4.2 以降
- MCU 5300 シリーズ バージョン 4.3( 2.17) 以降
- MCU MSE 8420 バージョン 4.2 以降
- MCU MSE 8510 バージョン 4.2 以降

## ダイヤルプラン

『[Cisco TelePresence Conductor Deployment Guide \(XC1.2\)](#)』（D14827）の「Designing a dial plan」という章に従ってダイヤルプランを設定します。

## TelePresence Conductor の設定

ここでは、会議が Cisco TMS によってスケジュールされる場合に TelePresence Conductor が実行されるように設定する方法について説明します。次の手順をリストされている順序どおりに実行します。

注：次の手順に進む前に「[このマニュアルの使用方法 \[p. 4\]](#)」セクションを読んでおく必要があります。

### スケジュールされた会議に会議ブリッジ プールを作成する

次の手順では、TelePresence Conductor にスケジュールされた会議専用の会議ブリッジ プールを設定する例を示します。この会議ブリッジ プールは、スケジュールされていない会議の会議テンプレートが使用するサービス プリファレンスに含めないでください。

1. 管理者権限を持つユーザとして TelePresence Conductor にログインします。
2. [会議の設定( Conference configuration) ] > [会議ブリッジ( Conference bridges) ] > [会議ブリッジ プール( Conference bridge pools) ]に移動します。
3. [新規( New) ]をクリックします。
4. [プール名( Pool Name) ]フィールドに名前を入力します( 例 : **Scheduled MCUs** ) 。
5. [プールの作成( Create pool) ]をクリックします。

### スケジュールされた会議の会議ブリッジ プールに会議ブリッジを追加する

1. [会議ブリッジの追加( Add conference bridge) ]をクリックします。
2. 適切なフィールドに、次の内容を入力してください：

名前( Name)	会議ブリッジ名( 例 : <b>MCU for scheduled conferences</b> ) 。
IP アドレスまたは FQDN( IP Address or FQDN)	会議ブリッジの IP アドレスまたは FQDN。
プロトコル( Protocol)	TelePresence Conductor が会議ブリッジとの通信に使用するプロトコル。 <i>HTTPS</i> と入力します。
ポート( Port)	TelePresence Conductor が会議ブリッジとの通信に使用するポート番号。 443 と入力します。
会議ブリッジ ユーザ名( Conference bridge username)	会議ブリッジの管理者ユーザ名( 例 : <b>conductoradmin</b> ) 。 <a href="#">『Cisco TelePresence Conductor Deployment Guide ( XCl.2) 』</a> の「 <i>Configuring the conference bridges</i> 」を参照してください。
会議ブリッジ パスワード( Conference bridge Password)	前述のユーザ名のパスワード。
ダイヤル プラン プリフィックス( Dial plan prefix)	この MCU へのコールをルーティングするときの Cisco VCS サーチ ルールの一部として定義されたプレフィックス。
専用コンテンツ ポート( Dedicated content ports)	MCU 専用のコンテンツ ポートの数を入力します。これは、MCU の [設定( Settings) ] > [メディア ポート( Media ports) ]の下にあります。

3. [会議ブリッジの作成( Create conference bridge) ]をクリックします。

4. [このプールの会議ブリッジ( Conference bridges in this pool )]の下に会議ブリッジの状態が [アクティブ( Active) ]としてリストされていることを確認します。
5. スケジュールされた会議に使用するすべてのブリッジに対して前述の手順を繰り返して行ってください。

## スケジュールされていない会議に会議ブリッジ プールを作成する

1. 管理者権限を持つユーザとして TelePresence Conductor にログインします。
2. [会議の設定( Conference configuration) ] > [会議ブリッジ( Conference bridges) ] > [会議ブリッジ プール( Conference bridge pools) ]に移動します。
3. [新規( New) ]をクリックします。
4. [プール名( Pool Name) ]フィールドに名前を入力します( 例 : **Non-Scheduled MCUs** )。
5. [プールの作成( Create pool) ]をクリックします。

## スケジュールされていない会議の会議ブリッジ プールに会議ブリッジを追加する

1. [会議ブリッジの追加( Add conference bridge) ]をクリックします。
2. 適切なフィールドに、次の内容を入力してください。

名前( Name)	会議ブリッジ名( 例 : <b>MCU for non-scheduled conferences</b> ) 。
IP アドレスまたは FQDN( IP Address or FQDN)	会議ブリッジの IP アドレスまたは FQDN。
ポート( Port)	TelePresence Conductor が会議ブリッジとの通信に使用するポート番号。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• HTTP = 80</li> <li>• HTTPS = 443</li> </ul>
プロトコル( Protocol)	TelePresence Conductor が会議ブリッジとの通信に使用するプロトコル。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• HTTP</li> <li>• HTTPS</li> </ul>
会議ブリッジ ユーザ名( Conference bridge username)	会議ブリッジの管理者ユーザ名( 例 : <b>conductoradmin</b> ) 。 <a href="#">『Cisco TelePresence Conductor Deployment Guide ( XCI.2) 』</a> の「Configuring the conference bridges」を参照してください。
会議ブリッジ パスワード( Conference bridge Password)	前述のユーザ名のパスワード。
ダイアル プラン プリフィックス( Dial plan prefix)	この MCU へのコールをルーティングするときの Cisco VCS サーチ ルールの一部として定義された英数字のプレフィックス。
専用コンテンツ ポート( Dedicated content ports)	MCU 専用のコンテンツ ポートの数を入力します。これは、MCU の [設定( Settings) ] > [メディア ポート( Media ports) ]の下にあります。

3. [会議ブリッジの作成( Create conference bridge) ]をクリックします。
4. [このプールの会議ブリッジ( Conference bridges in this pool )]の下に会議ブリッジの状態が [アクティブ( Active) ]としてリストされていることを確認します。
5. スケジュールされていない会議に使用するすべてのブリッジに対して前述の手順を繰り返して行ってください。

## スケジュールされた会議のためのサービス プリファレンスを追加する

次の手順では、スケジュールされた会議専用の会議ブリッジのみを使用するサービス プリファレンスを TelePresence Conductor に設定する例を示します。

1. [会議の設定( Conference configuration) ] > [会議ブリッジ( Conference bridges) ] > [会議ブリッジ サービス プリファレンス( Conference bridge Service Preferences) ]に移動します。
2. [新規( New) ]をクリックします。
3. [サービス プリファレンス名( Service Preference name) ]フィールドに入力します(例: **Scheduled resources only**) 。
4. ページの [プール( Pools) ]セクションの [プール名( Pool name) ]の下で、スケジュールリングに予約される *MCU* を選択します。
5. [選択されたプールの追加( Add selected pool) ]をクリックします。
6. [保存( Save) ]をクリックします。

## スケジュールされた会議のためのサービス プリファレンスをフォールバックで追加する

1. [会議の設定( Conference configuration) ] > [会議ブリッジ( Conference bridges) ] > [会議ブリッジ サービス プリファレンス( Conference bridge Service Preferences) ]に移動します。
2. [新規( New) ]をクリックします。
3. [サービス プリファレンス名( Service Preference name) ]フィールドに入力します(例: **Scheduled resources with non-scheduled fallback**) 。
4. ページの [プール( Pools) ]セクションの [プール名( Pool name) ]の下で、スケジュールリングに予約される *MCU* を選択します。
5. [選択されたプールの追加( Add selected pool) ]をクリックします。
6. ページの [プール( Pools) ]セクションの [プール名( Pool name) ]の下で、スケジュールされない *MCU* を選択します。
7. [選択されたプールの追加( Add selected pool) ]をクリックします。
8. [保存( Save) ]をクリックします。

## スケジュールされた会議に会議テンプレートを作成する

次の手順では、会議タイプの会議テンプレートを作成する例を示します。この例ではスケジュールリング用に予約されたリソースを選ぶサービス プリファレンスを使用し、スケジュールされていないリソースへのフォールバックを伴います。Cisco TMS を使用して TelePresence Conductor での会議のスケジュールリングを行う場合、次のことに注意してください。

- 会議タイプの会議テンプレートのみサポートされます。
- スケジュールされた会議に使用する会議テンプレートの排他制御を Cisco TMS に設定しなければなりません。別の会議テンプレートがスケジュールされていない会議用に設定されていなければなりません。
- スケジュールされた会議に使用する会議ブリッジは、スケジュールされていない会議には使用できません。

スケジュール会議の会議テンプレートを作成するには、次の手順を実行します。

1. [会議の設定( Conference configuration) ] > [会議テンプレート( Conference templates) ]に移動します。
2. [新規( New) ]をクリックします。



3. 該当するフィールドに次のように入力し、他のフィールドをデフォルト値のままにします。

名前 (Name)	テンプレートの名前( 例 : <b>Scheduled meeting</b> ) 。
会議タイプ ( Conference type)	[ 会議 ( Meeting ) ] を選択します。
コール ポリシー モード ( Call Policy mode)	[ オン ( On ) ] を選択します。Cisco VCS のコール ポリシーは下記の手順に従い設定します。参加者によるスケジュール済み会議の開始を防止するよう Cisco VCS を構成する [p.15]
会議ブリッジ サービス プリファレンス ( Conference bridge Service Preference)	<i>Scheduled resources with non-scheduled fallback</i> を選択します。
予約するカスケード ポート番号 ( No. of cascade ports to reserve)	「1」を入力します。

4. [ 会議テンプレートの作成 ( Create conference template ) ] をクリックします。

# Cisco TMS の設定

## TelePresence Conductor および MCU を Cisco TMS に追加する

Cisco TMS のアドホック コールの検出、スナップショットおよびコール詳細レコード (CDRs) などの機能には、MCU を TelePresence Conductor および Cisco TMS に、この順序で追加する必要があります。

各 MCU が TelePresence Conductor によって管理されていることを Cisco TMS が認識できるように、以下のことを行います。

1. 下の「システムを Cisco TMS に追加する [p. 10]」セクションの説明に従い、IP アドレスを使用して TelePresence Conductor を Cisco TMS に追加します。
2. 下の「システムを Cisco TMS に追加する [p. 10]」セクションの説明に従い、各 MCU を Cisco TMS に追加します。
  - TelePresence Conductor の [IP アドレスまたは FQDN ( IP Address or FQDN ) フィールドで IP アドレスを指定した場合は、IP アドレスによって MCU を追加します。
  - TelePresence Conductor の [IP アドレスまたは FQDN ( IP Address or FQDN ) フィールドで FQDN を指定した場合は、ホスト名によって MCU を追加します。

## システムを Cisco TMS に追加する

システムを Cisco TMS に追加するには、以下の操作を行います。

1. [システム ( Systems ) ] > [ナビゲータ ( Navigator ) ]に移動します。 システムのフォルダを選択します。
2. [システムの追加 ( AddSystems ) ] をクリックします。

3. IP アドレス、DNS 名、IP の範囲、または IP アドレスや DNS 名のカンマ区切りリストのいずれかを入力します。
4. ドロップダウン リストから、システムの [タイムゾーン ( Time Zone ) ]、[IP ゾーン ( IP Zone ) ]、および [ISDN ゾーン ( ISDN Zone ) ] を選択します。
5. 認証の詳細、構成テンプレート、または SNMP 検出オプションを追加する必要がある場合は、[詳細設定 ( Advanced Settings ) ] セクションの見出しをクリックして、展開します。  
[管理者パスワード ( Admin Password ) ] フィールドには入力しないでください。
6. システムの追加を開始するには、ページの下部にある [次へ ( Next ) ] ボタンをクリックします。Cisco TMS がそのアドレスに接続し、追加されているシステムのタイプとシステム設定を決定するときに、進捗ウィンドウが表示されます。
7. システムにアクセスするためのパスワードが必要な場合は、プロンプトが表示されるようになります。パスワードを入力し、[次へ ( Next ) ] をクリックします。

- TelePresence Conductor を追加するとき、いくつかのエラーが表示されます。これは想定どおりです。単に [警告にかかわらずシステムを登録する (Add System Despite Warnings)] を選択します。
8. [システムの追加の完了 (Finish Adding Systems)] をクリックして、メイン [ナビゲータ (Navigator)] ビューに戻ります。  
これで、新しいシステムは指定フォルダに配置されます。

## 接続設定の確認

すでに TelePresence Conductor および Cisco TMS に追加されている MCU の設定に互換性があることを確認するには、すべての MCU で次の項目をチェックします。

1. TelePresence Conductor において次のように操作します。
  - a. [会議の設定 (Conference configuration)] > [会議ブリッジ (Conference bridges)] > [会議ブリッジ プール (Conference bridge pools)] に移動します。
  - b. この MCU のアドレスを記録します。
  - c. [IP アドレスまたは FQDN (IP Address or FQDN)] 設定を含むプロパティを表示するには、リストの MCU をクリックします。
2. Cisco TMS において次のように操作します。
  - a. [システム (Systems)] > [ナビゲータ (Navigator)] に移動し、MCU を選択します。
  - b. [接続 (Connection)] タブを開きます。
  - c. [IP アドレス (IP Address)] または [ホスト名 (Host Name)] のいずれかが、TelePresence Conductor の [IP アドレスまたは FQDN (IP Address or FQDN)] 設定と一致していることを確認します。

## TelePresence Conductor をデフォルトの MCU として設定する

TelePresence Conductor が Cisco TMS に追加され、デフォルトのエイリアスが作成されたら、それを予約におけるデフォルトの MCU として設定することができます。

1. [管理ツール (Administrative Tools)] > [構成 (Configuration)] > [会議設定 (Conference Settings)] に移動します。
2. [詳細会議オプション (Advanced Conference Options)] で、[ルーティングでの優先 MCU タイプ (Preferred MCU Type in Routing)] を Cisco TelePresence Conductor に設定します。
3. すべてのコールに TelePresence Conductor を経由させる場合は、さらに [ルーティングにおける外部 MCU 使用率 (External MCU Usage in Routing)] を [常時 (Always)] に設定します。
4. [保存 (Save)] をクリックします。

## Cisco TMS が使用する TelePresence Conductor のリソースを制限する

リソースを制限する場合は、Cisco TMS で TelePresence Conductor を以下のようにスケジューリングします。

1. [システム (Systems)] > [ナビゲータ (Navigator)] に移動し、TelePresence Conductor を選択して、[設定 (Settings)] タブ > [設定の編集 (Edit Settings)] > [スケジュールされた同時通話の最大数 (Max Number of Concurrent Scheduled Calls)] に移動します。
2. この値を、スケジューリングに使用できるブリッジ容量以下に設定します。

この設定を使用：

スケジュールされた同時通話の最大数	説明
使用可能な実際のポート数より少ない	想定されるカスケード ポート、コンテンツ ポート、および予想より多くのポートを使用するその他のシナリオを考慮することにより、スケジュールされたコールの成功率を高めめます。
使用可能なポート数と同一	上記と同様ですが、カスケードやコンテンツなどに使用されるポートを考慮しないため、コールが失敗する可能性が少しあります。
使用可能な実際のポート数よりも多い	超過予約を可能にします。これは、会議が頻繁に予約されるものの開催されない場合、またはユーザーが頻繁にリソースの超過予約を行う場合に便利です。
この設定を空白にする	予約できるポート数を制限しません。

**注：**この設定は Cisco TMS での TelePresence Conductor のスケジューリングのみを制限します。Cisco TMS によって TelePresence Conductor の設定は変更されません。

# 会議エイリアスの作成

エイリアスのパターンは、会議に参加するために参加者がダイヤルできる会議アドレスの範囲を指定します。エイリアスは TelePresence Conductor のテンプレートにリンクされます。

## スケジュールされたコール用に会議エイリアスを作成する

### Cisco TMSにエイリアスを作成する

エイリアスを作成するには:

1. [システム (Systems)] > [ナビゲータ (Navigator)] に移動し、新しく追加された TelePresence Conductor を選択します。
2. [エイリアス (Aliases)] タブを開いて [エイリアスの編集 (Edit Aliases)] メニュー オプションを選択します。
3. 次のフィールドを入力します。

名前 (Name)	エイリアスに名前を指定します。例: <b>Scheduled meeting</b> 。
エイリアス パターン (Alias Pattern)	<p>パターンは固定か、または % で指定される変数を含めることができます。エイリアスのパターンにドメインを含めることを強く推奨します。エイリアスのパターンは、次の両方と一致する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Conductor ポリシー サービスを対象とした Cisco VCS の検索ルール。</li> <li>• TelePresence Conductor に作成された会議エイリアス。</li> </ul> <p>例:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 変数: <b>meet.%.scheduled@example.org, 1234.%.scheduled@example.org</b></li> <li>• 固定: <b>allhands@example.org, 1234@example.org</b></li> </ul>
デフォルト (Default)	<p>この TelePresence Conductor において Cisco TMS に予約された会議でデフォルトとして使用されるエイリアスを指定します。</p> <p>最適なスケーラビリティのために、デフォルトとして固定エイリアスではなく、変数部分を含むエイリアスを設定することを推奨します。</p> <p>これが作成する最初のエイリアスである場合、デフォルトとして自動的に設定されます。</p>
説明 (Description)	このエイリアスの説明を入力します。
使用中 (In Use)	<p>緑色のチェック マークは、このエイリアスが現在または将来の会議で予約されていて、削除またはパターンの変更ができないことを示します。[詳細 (Details)] をクリックすると、エイリアスが予約されているすべての会議の ID が表示されます。</p> <p>これが作成する最初のエイリアスである場合、このカラムは空欄になります。</p>

4. [保存 (Save)] をクリックします。

**注:** TelePresence Conductor の会議タイプである「講義 (Lecture)」は Cisco TMS ではサポートされません。会議タイプ「会議 (Meeting)」を使用する会議テンプレートのみがサポートされます。

## TelePresence Conductor でのエイリアスの作成

### エイリアス パターンの正規表現のコピー

1. Cisco TMS で、[エイリアスの表示 (View Aliases)] メニュー オプションをクリックします。[正規表現 (Regular Expression)] カラムは、正規表現として作成したエイリアスのパターンを示しています。これは、Cisco VCS のサーチ ルールと TelePresence Conductor のエイリアスを設定する際にコピーして使用することができます。

2. 正規表現をコピーし、TelePresence Conductor の Web インターフェイスにアクセスします。

### 正規表現を使用して「スケジュールされた会議」テンプレートの会議エイリアスを作成する

次の手順では、サービス プリファレンス「Scheduled resources with non-scheduled fallback」に対してスケジュールされた会議タイプの会議に一致する会議エイリアスを作成します。

1. [会議の設定(Conference configuration)] > [会議エイリアス(Conference aliases)] に移動します。
2. [新規(New)] をクリックします。
3. 該当するフィールドに次のように入力し、他のフィールドをデフォルト値のままにします。

名前( Name)	エイリアス名を入力します( 例: <b>Scheduled meeting</b> ) 。
着信エイリアス( Incoming alias)	Cisco TMS からコピーした正規表現をペーストします( 例: <b>(meet\.*\.*.scheduled)@&lt;SIP domain&gt;</b> )。このパターンは <b>meet.[any_characters].scheduled@example.org</b> と一致します。
会議名( Conference name)	入力エイリアスをどのように変更して会議名にするかを定義する、正規表現の置換文字列を入力します。例: <b>\1</b> 。
優先順位( Priority)	この会議エイリアスの優先順位を入力します。優先順位はダイヤルされたエイリアスが複数の会議エイリアスに一致する場合に使用されます。このような場合、優先順位が最も高い( 1 に最も近い) 会議エイリアスが使用されます。入力例: <b>25</b>
会議テンプレート( Conference template)	<i>Scheduled meeting</i> を選択します。
役割名( Role name)	<i>Participant</i> を選択します。

4. [会議エイリアスの作成(Create conference alias)] をクリックします。

## Cisco VCS および MCU の追加設定を構成する

Cisco TMS および TelePresence Conductor のセットアップに加えて、Cisco VCS および MCU でこれらの設定を行って、配置が正しく動作するようにする必要があります。

### 参加者によるスケジュール済み会議の開始を防止するよう Cisco VCS を構成する

これは、ダイヤルインの参加者がスケジュール済み会議のエイリアスをコールして会議を開始するのを防止します。Cisco TMS が予定時刻に会議を開始します。

Cisco VCS で、次の手順を実行します。

1. [VCS 構成( VCS Configuration) ] > [コール ポリシー( Call Policy) ] > [構成( Configuration) ]に移動し、[コール ポリシー モード( Call policy mode) ]を [ローカル CPL( Local CPL) ]に設定して、[保存( Save) ]をクリックします。
2. エイリアス「Scheduled meeting」およびスケジュールされた会議用に作成された他のエイリアスに、次の手順を実行します。
  - a. [VCS 構成( Configuration) ] > [コール ポリシー( Call Policy) ] > [ルール( Rules) ]に移動します。
  - b. 新しいルールを作成するには、[新規( New) ]をクリックします。
  - c. [ソース パターン( Source pattern) ]フィールドで、次の手順を実行します。
    - Cisco VCS で認証を使用している場合は、「**.\***」と入力します。
    - 認証を使用していない場合は、空白のままにします。
  - d. [宛先パターン( Destination pattern) ]フィールドに Conductor コール ポリシー プレフィックス( デフォルトでは **create.**) を入力し、その後にエイリアスのプレフィックス( この例では **meet\.**) を入力します。
  - e. [アクション( Action) ]を [拒否( Reject) ]に設定して、[保存( Save) ]をクリックします。

The screenshot shows a dialog box titled "Add Call Policy rule". It contains three input fields: "Source pattern" with the value "\*", "Destination pattern" with the value "create.meet\'", and "Action" with a dropdown menu set to "Reject". There are "Add", "Delete", and "Cancel" buttons at the bottom.

コール ポリシー ルールの詳細については、Cisco VCS で状況依存ヘルプを使用します。

### MCU 会議テンプレートを構成する

会議の議長として割り当てられたダイヤルイン参加者が接続を解除しようとしたときに会議が終了しないようにするには、次の設定を各 MCU に適用する必要があります。

1. [会議( Conferences) ] > [テンプレート( Templates) ] > [最上位テンプレート( Top level template) ]に移動します。
2. [ゲストだけが残った場合( When only guests remain) ]を [アクションなし( Take no action) ]に設定し、[保存( Save) ]をクリックします。

# Cisco TMS と Cisco TelePresence Conductor による会議の予約と編集

## 会議の予約

1. Cisco TMS で通常どおり [予約(Booking)] > [新しい会議(New Conference)] を使用して会議を予約します。  
[会議設定(Conference Settings)] でデフォルト MCU として設定されている場合、手動で TelePresence Conductor を会議に追加する必要はありません。
2. 会議に参加者を追加したら、[接続設定(Connection Settings)] タブをクリックして [TelePresence Conductor の設定( TelePresence Conductor Settings)] タブを表示し、必要に応じてフィールドに入力してください。

フィールド	説明
エイリアス( Alias)	会議のダイヤルイン アドレスとして使用するエイリアスを選択します。 ドロップダウンで表示されるエイリアスは、[システム( Systems)] > [ナビゲータ( Navigator)] で TelePresence Conductor を選択 > [エイリアス( Aliases)] タブ > [エイリアスの編集( Edit Aliases)] で設定されたものです。
変数( Variable)	エイリアスが固定でない場合は、会議に該当する部分が含まれる可変部分を変更できません。 [変数( Variable)] フィールドに入力すると、入力した内容が反映されるようにプレビューに変更が表示されます。 変数には英数字を使用することができます。 変数の例として、会議をホストしている人の名前があります。 [変数( Variable)] フィールドには、10000 以上で最初に使用可能な数字(一意のアドレスを作成する)が Cisco TMS により事前に入力されています。 このデフォルト値は Cisco TMS でハードコードされていることに注意してください。 変数を変更しない場合、[プレビュー( Preview)] フィールドに表示できる自動生成されたアドレスが会議に使用されます。
アドレス プレビュー( Address Preview)	参加者が会議にダイヤルするために使用するアドレスのプレビュー。 可変部分を変更すると、このフィールドに表示されるアドレスの青い部分を変更されます。
説明( Description)	このフィールドには、[システム( Systems)] > [ナビゲータ( Navigator)] > TelePresence Conductor を選択 > [エイリアス( Aliases)] タブ > [エイリアスの編集( Edit Aliases)] のエイリアスに追加される説明が含まれます。 このフィールドは、ユーザが選択したエイリアスの説明がない場合は表示されません。

3. 選択したエイリアスが使用可能であることを確認するには、[アドレスが使用可能かを確認( Check Address Availability)] をクリックします。
4. [会議の保存と有効化( Save Conference)] をクリックします。

次のスケジュール オプションは Cisco TMS の TelePresence Conductor ではサポートされていません。

- メディア ポートの予約: これを MCU 上でイネーブルにしないでください。
- 会議テンプレート
- 参加者テンプレート
- 分散
- TelePresence Conductor の会議タイプである「講義( Lecture)」。 会議タイプ「会議( Meeting)」を使用する会議テンプレートのみがサポートされます。



## 会議の編集

Cisco TMS で通常どおり [予約 (Booking)] > [会議の一覧 (List Conferences)] を使用して会議を編集します。

また、[TelePresence Conductor 設定 (TelePresence Conductor Settings)] タブから会議のアドレスを変更できます。

# スタンドアロン MCU への移行と復帰

この項では、すでに Cisco TMS に MCU を追加して将来の会議をスケジュールした状態で、それらの会議を TelePresence Conductor に移動する方法を説明します。また、TelePresence Conductor を削除し、将来に予約されている会議に個別の MCU を使用するよう戻したいケースも扱います。

## スタンドアロン MCU からの移行

Cisco TMS で TelePresence Conductor にすでに追加されている MCU がある場合、おそらく、これらは将来の会議で予約され、コール履歴は、Cisco TMS でこれらの MCU に保存されます。

TelePresence Conductor スケジュールに移行する場合、Cisco TMS と TelePresence Conductor は、これらの MCU ですでに予約されたリソースを認識しません。これは、重複予約、コールの失敗、誤ったモニタリング データの原因となることがあります。これを回避するには、次に示す移行計画に従ってください。

1. TelePresence Conductor が設定されたら、これを Cisco TMS に追加し、エイリアスを設定します。
2. 『[Cisco TelePresence Conductor Deployment Guide](#)』のブリッジ追加の手順に従って、各 MCU を TelePresence Conductor に追加します。  
[IP アドレスまたは FQDN ( IP Address or FQDN ) ]フィールドでは、「[接続設定の確認 \[p. 11\]](#)」の説明に従って、Cisco TMS の MCU の接続設定を確実に一致させます。
3. [システム ( Systems ) ] > [ナビゲータ ( Navigator ) ]に移動し、TelePresence Conductor を選択します。
  - a. [設定 ( Settings ) ]タブを開きます。
  - b. [強制的に更新 ( Force Refresh ) ]をクリックします。  
Cisco TMS は、これで MCU が TelePresence Conductor の会議ブリッジ プールの一部であることを認識します。
4. 『[TelePresence Conductor をデフォルトの MCU として設定する \[p. 11\]](#)』の手順に従って、TelePresence Conductor がお気に入りの MCU になるようにします。
5. 各 MCU に対して、
  - a. [システム ( Systems ) ] > [ナビゲータ ( Navigator ) ]に移動し、MCU を選択します。
  - b. [設定 ( Settings ) ]タブを開きます。
  - c. [強制的に更新 ( Force Refresh ) ]をクリックします。  
これによって、MCU が直接予約できなくなります。
6. [予約 ( Booking ) ] > [会議の一覧 ( List Conferences ) ]に移動します。
7. すべての MCU でフィルタリングし、今後の予約をすべてカバーする日付範囲を選択します。[検索 ( Search ) ]をクリックします。
8. 各会議の編集：
  - a. 各会議をクリックして、[会議を表示 ( View Conference ) ]ウィンドウを開き、[編集 ( Edit ) ]をクリックします。  
予約が一連の定例会議の一部であり、個々のインスタンスに変更を加えた場合は、[この会議の編集 ( Edit this occurrence ) ]を選択して、個々のインスタンスに必要な変更を加えます。一連の会議全体を一度に更新すると、一連の会議が再予約され、個々のインスタンスに対する変更がキャンセルされます。
  - b. 参加者として MCU を削除し、[保存 ( Save ) ] をクリックします。  
これにより、TelePresence Conductor を使用して新しいルートが生成されます。コールの方向など、最初の会議の予約時に加えた変更は、再度実行する必要があります。配信は、自動的に処理されます。
  - c. これで、すべてのダイヤルインの参加者に新しいダイヤルイン番号が割り当てられるため、参加者に新しい会議の確認用電子メールを送信して、この変更について知らせます。
  - d. 各会議に対して、上記の手順を繰り返します。

## スタンドアロン MCU に戻す

1. TelePresence Conductor の Web インターフェイスで、すべての会議ブリッジ プールから MCU を削除します。これらの MCU を参照するブリッジ プール、サービス プリファレンス、テンプレート、およびエイリアスの削除が必要になる場合があります。  
無効にするだけでは Cisco TMS の TelePresence Conductor との関連付けは解除されないため、MCU を必ず削除する必要があります。
2. 各 MCU の Web インターフェイスにおいて、
  - a. [設定 (Settings)] > [H.323] に移動し、[スケジュールされた会議の数値 ID 登録を許可 (Allow numeric ID registration for conferences)] をイネーブルにします。
  - b. [設定 (Settings)] > [SIP] に移動し、[スケジュールされた会議の数値 ID 登録を許可 (Allow numeric ID registration for conferences)] をイネーブルにします。
3. Cisco TMS で [システム (Systems)] > [ナビゲータ (Navigator)] に移動し、TelePresence Conductor を選択します。
  - a. [設定 (Settings)] タブを開きます。
  - b. [強制的に更新 (Force Refresh)] をクリックします。  
Cisco TMS は、これで MCU が TelePresence Conductor の会議ブリッジ プールの一部ではなくなったことを認識します。
4. Cisco TMS において各 MCU に対し、
  - a. [システム (Systems)] > [ナビゲータ (Navigator)] に移動し、MCU を選択します。
  - b. [設定 (Settings)] タブを開きます。
  - c. [強制的に更新 (Force Refresh)] をクリックします。
  - d. [設定の編集 (Edit Settings)] に移動します。
  - e. [TMS スケジューリング設定 (TMS Scheduling Settings)] セクションで、[予約を許可 (Allow Booking)]、適切な [着信 ... を許可 (Allow incoming...)]、および [発信 ... を許可 (Allow outgoing...)] ダイアル オプションをイネーブルにします。
5. [予約 (Booking)] > [会議の一覧 (List Conferences)] に移動します。
6. TelePresence Conductor でフィルタリングし、今後の予約をすべてカバーする日付範囲を選択します。[検索 (Search)] をクリックします。
7. 各会議の編集：
  - a. 各会議をクリックして、[会議を表示 (View Conference)] ウィンドウを開き、[編集 (Edit)] をクリックします。  
予約が一連の定例会議の一部であり、個々のインスタンスに変更を加えた場合は、[この会議の編集 (Edit this occurrence)] を選択して、個々のインスタンスに必要な変更を加えます。一連の会議全体を一度に更新すると、一連の会議が再予約され、個々のインスタンスに対する変更がキャンセルされます。
  - b. 参加者として TelePresence Conductor を削除し、[保存 (Save)] をクリックします。  
これにより、1 つ以上の MCU を使用して、新しいルートが生成されます。  
コールの方向など、最初の会議の予約時に加えた変更は、再度実行する必要があります。
  - c. これで、すべてのダイヤルインの参加者に新しいダイヤルイン番号が割り当てられるため、参加者に新しい会議の確認用電子メールを送信して、この変更について知らせます。
  - d. 各会議に対して、上記の手順を繰り返します。
8. 関連する MCU への適切なエイリアスにルーティングされるように、Cisco VCS に適切なネイバーゾーンとサーチ ルールが設定されていることを確認します。

## 制限事項

- TelePresence Conductor では、関連する参加者を自動ダイヤル対象としてテンプレートに設定することができます。そのテンプレートに基づく会議が作成されるたびに 1 人以上の参加者が自動的にダイヤルされて会議に参加するように設定可能です。管理者はテンプレートに自動ダイヤルされる参加者が設定されている場合、Cisco TMS に表示されているよりも多くのリソースが使用されることに注意してください。
- TelePresence Conductor がクラスタ化されている場合、Cisco TMS では複数ピアを使用せず、1 つの TelePresence Conductor だけを使用します。そのため、クラスタ化された TelePresence Conductor 環境では、TelePresence Conductor のピアの 1 つだけを Cisco TMS に追加してください。
- Cisco TMS では TelePresence Conductor の設定は変更できません。[システム( Systems) ] > [ナビゲータ( Navigator) ]に移動して TelePresence Conductor を選択すると表示される [設定( Settings) ]タブ > [設定の編集( Edit Settings) ]で設定可能な [スケジュールされた同時通話の最大数( Max Number of Concurrent Scheduled Calls) ]の設定は TelePresence Conductor に何の影響も与えません。この設定は、Cisco TMS が TelePresence Conductor に対してスケジューリングするリソースを管理者が制限することを可能にします。「[Cisco TMS が使用する TelePresence Conductor のリソースを制限する \[p. 11\]](#)」を参照してください。
- TelePresence Conductor が管理する MCU からのコール詳細記録( CDR) には ConferenceID は含まれません。
- TelePresence Conductor 自体は、会議 CDR を Cisco TMS にフィードバックしません。

次のスケジュール オプションは Cisco TMS の TelePresence Conductor ではサポートされていません。

- メディア ポートの予約：これを MCU 上でイネーブルにしないでください。
- 会議テンプレート
- 参加者テンプレート
- 分散
- TelePresence Conductor の会議タイプである「講義( Lecture) 」。 会議タイプ「会議( Meeting) 」を使用する会議テンプレートのみがサポートされます。

## MCU のフェールオーバー

MCU の前面で TelePresence Conductor を使用する際に、以下に注意する必要があります：

- Cisco TMS は、MCU ではなく TelePresence Conductor をポーリングするため、MCU に障害が発生したかどうかはわかりません。TelePresence Conductor を使用している場合、会議をホスティングする MCU に障害が発生したときに Cisco TMS が参加者を別の MCU に移動する MCU フェールオーバーはサポートされません。代わりに TelePresence Conductor への Cisco TMS の接続が失敗すると、Cisco TMS は会議を別の TelePresence Conductor または使用可能な MCU に移動します。
- 以下の設定を推奨します。[Cisco TMS] > [管理ツール( Administrative Tools) ] > [構成( Configuration) ] > [会議設定( Conference Settings) ] > [自動 MCU フェールオーバー( Automatic MCU Failover) ]で [会議の開始または MCU ポーリングに失敗した場合( If conference start or MCU polling fails) ]を使用しないこと。これは、Cisco TMS が TelePresence Conductor への接続を失っても、依然すべての参加者と MCU が互いに接続されていて会議には影響がないということがありえるからです。[自動 MCU フェールオーバー( Automatic MCU Failover) ]を使用する場合は、[会議の開始に失敗した場合( If conference start fails) ]を選択することを推奨します。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

Cisco and the Cisco Logo are trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the U.S. and other countries. A listing of Cisco's trademarks can be found at [www.cisco.com/go/trademarks](http://www.cisco.com/go/trademarks). Third party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1005R)

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

© 2013 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

©2008 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco、Cisco Systems、およびCisco Systems ロゴは、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における登録商標または商標です。本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。

「パートナー」または「partner」という用語の使用はCiscoと他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(0809R)

この資料の記載内容は2008年10月現在のものです。

この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。



シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先: シスコ コンタクトセンター

0120-092-255(フリーコール、携帯・PHS含む)

電話受付時間: 平日 10:00~12:00、13:00~17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>